

第12回 ブリッジ研究会

第12回



2020.08.23 肺がんと ともに働く

① 肺がんについて



池田 慧 いけだ さとし

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター
呼吸器内科/臨床研究所・臨床研究室 医長

【略歴】

2007年4月～2009年3月：横浜栄共済病院 初期研修医
2009年4月～2012年3月：神奈川県立循環器呼吸器病センター 後期研修医
2012年4月～2015年3月：倉敷中央病院 呼吸器内科 専門修練医・副医長
2015年4月～現在：神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科 医長

【メッセージ】近年、肺がんの薬物治療は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により目覚ましく進歩し、従来就労の継続が困難であった進行期の肺がんにおいても、治療成績やQOLが著しく向上しています。病気を治療しつつ就労を継続できる社会の実現が広く求められますが、肺がん診療に従事する医療者の就労支援に関する知識や問題意識は十分とは言えない状況です。臨床の現場で肺がん薬物治療に携わる医師として、がん患者の治療と仕事の両立のために医療者ができること・考えていくべきことを、皆さんと一緒に考えていければと思います。

③ 肺がんの治療と仕事の両立体験を聴く

② グループディスカッション&全体共有

医療×労働
||
職場
の多様性の構築

ブリッジ 第12回研究会

肺がんと ともに働く

2020年 8月23日(日) 13:30～16:30
ブリッジ研究会初の Zoom開催 安心!
安心!

一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジでは、医療従事者と企業関係者が垣根を越え情報や問題を共有し、多様性に富む労働環境を構築することを目的に、毎回異なるテーマで専門の立場からのレクチャーと会場のディスカッションで構成する研究会を開催しています。

12回目のテーマは「肺がんとともに働く」です。肺がんに罹る人は多く、しかも長らく治療が厳しいとされてきました。しかし近年、遺伝子変異との関連性を見据えた薬物治療などにより、日常生活の質が良好に保たれることも増えてきました。いま、どう変わっているのでしょうか?専門医のレクチャーと治療をしながら仕事に積極的に取り組む経験者に学ぶ貴重な機会です。ぜひご参加ください!

さまざまな立場からの発信で場が活性化し、議論が深まり、具体性のある方策を共に見出し、コミュニケーションとして発展することを願っています。

今回のPoint

- 医療者の方も安心して参加できるオンライン開催
- 講師陣は横浜の会議室からの生配信
- 学びを深める質疑応答・グループディスカッション・リアルタイムのアンケート&結果共有など、双方向参加型のプログラム(パソコンでの参加をお勧めします)!

● 対象 医療従事者、企業関係者、キャリアコンサルタント・社労士など
仕事と治療の両立支援に携わっている方・これから携わろうとする方

● 料金 ブリッジ会員:無料 非会員:2,000円
※ 申し込みと同時の入会(5,000円/年会費)も可能です

● 定員 24名

● 申込 <https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/012xne1100wf3.html>
※ 申込専用サイト「パスマーケット」からお申込みください(クレジットカード決済)
※ ブリッジHP(裏面参照)からもリンクします

● 主催 一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ

● 後援 愛知県、名古屋市、名古屋市医師会
ブリッジ研究会は、多様ながんの場により、併発がん発症率の向上と予防に貢献しており、公益社団法人日本がん協会が「がん患者団体2020年度活動報告書」に掲載されています